

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述・論述・選択・描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

非典型的な問題が出題され、試験場での題意の理解力と思考力が試される。

数値計算が多い。論述問題が出題される。

人名・用語や、物理量の数値など、知識を問う問題が出題される。

原子分野が出題される。

その他トピックス

なし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式	力学・原子 (水平面へのくり返し衝突、放射線の測定単位)	物理基礎 物理	問1は、小球の水平面へのくり返し衝突は典型的な出題。 問2は、放射能(放射線)の測定単位の定義を確認する問題。どちらも手早く確実に解答したい。	易
II	問形式 空所補充	電磁気 (心臓周囲に生じる磁場を測定)	物理	問1では、磁性体の分類を問う知識問題や、磁気量の単位を基本単位で表す問題などが出題された。問3以降は心臓周囲の磁場を計測する2つの方法の考察で、例年同様、題意の素早い理解と計算の体力が必要。	やや難
III	問形式	熱力学 (大気圧の高度変化、空気塊の温度変化)	物理基礎 物理	問1は、(a)は飽和水蒸気圧に達していないが、(b)は飽和水蒸気圧に達していることに注意が必要。問3では、大気圧の高度変化と、空気塊の温度変化を考察していく。(h)は浮力を用いて説明することもできる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本・典型問題と、複合的な問題・見慣れない非典型問題が出題される。また、数値計算が多い。題意を正確に素早く把握する力、迅速な計算能力が必要である。過去問や程度の高い問題集などで、よく訓練しておきたい。また教科書に載っている細かい知識や、原子分野からの出題が見られるので、教科書にもしっかり目を通しておこう。